

## 協会の危機的な財務状況について

- (1) 2006 年の協会創設（法人化）以来、会費は一度も増額することなく今日まで来ました。しかし、昨今の物価高などにより、**財務状況は極めて深刻な状況**にあります。
- (2) 2021 年度から 2025 年度の間、2 回黒字を計上しましたが、両年は九州ブロック研修会主催という、いわば「特殊要因」によるもので、これがなければ赤字でした。つまり、**実質的には、過去 5 年間連続赤字**になっています。
- (3) 加えて、2024 年度、2025 年度ともに約 200 万円のマイナス収支で（計・約 400 万円）、現在、繰越金は 200 万を下回り、このまま推移すれば、2026 年度、もしくは 2027 年度のいずれかの時点において協会資金が枯渇します。この事実は、同時に協会の消滅を意味します。
- (4) 「協会の消滅」は、単に協会の問題にとどまらず、法定研修の継続問題など多方面に深刻な影響を与え、最終的には、本県の要介護高齢者の方々に甚大な負の作用を及ぼします。よって、何としてでも協会を再興する必要があります。
- (5) 収支改善方策の単純な方法として、会費や研修会費の値上げがありますが、これは会員の方々の負担増大に連なるものであり、可能な限り、この手段は避けたいと考えております。
- (6) これまでも協会の健全財務に向けて必死に取り組んできましたが、さらなる支出削減や会員拡大（会費収入）、自主研修などによる収入増大を図って参ります。
- (7) しかしながら、財務の立て直しは、理事や事務局などだけでは成しえず、会員全体の危機感の共有と御協力が不可欠となります。どうぞ、みなさま、周囲のケアマネの方々への協会加入のお声かけなど、存続に向けての協働をお願い致します。

理事長 工藤修一 拝